

Report on Foreign Judiciaries

シンガポールとオーストラリアは、経済面や観光面で、日本と密接な関係にあります。裁判官の相互交流も盛んに行われています。オーストラリアには毎年3名の裁判官らが留学していますし、シンガポール国立大学へも裁判官が短期派遣されています。

宮崎裕子（みやざきゆうこ）最高裁判事は、令和2年2月、シンガポールとオーストラリアに出張し、現地の司法事情を視察するとともに、最高裁判所長官をはじめ多くの法律家と意見交換を行いました。



- ▲ シンガポール国家裁判所にて
電光掲示板に判事の来庁が表示されました。
- ◀ シンガポール最高裁判所にて
メノン最高裁長官を表敬訪問し、意見交換を行いました。

Singapore

シンガポールは、裁判手続のIT化に20年以上前から段階的に取り組んでおり、IT化が最も進んだ国の一つとされています。人々はインターネットを通じて、民事や家事の裁判手続を申し立てることができ、事件によっては、電子的に提出された書面だけに基づいて審理判断がされます。法廷で口頭弁論がなされる事件ももちろんありますが、口頭弁論の内容は同時音声入力ですぐに自動反訳されて電子データ化され、口頭弁論の過程で参照された訴訟書面や証拠が即座に法廷内のスクリーンに表示されるなど裁判手続のIT化が法廷内における弁論内容の可視化にも役立てられています。現在ではAI技術の導入も進められており、例えば交通事故による損害賠償事件について、過去の裁判例情報をもとに、訴訟が提起さ

れた場合にどのような判断になるかについてAIに予想させ、裁判所はAIで予想された損害賠償額を前提に、紛争当事者間での話し合いによる解決を勧めるといった取組が行われています。その他にも、音声の自動翻訳技術を用いることで法廷通訳の質を向上させる取組や、軽微な刑事事件において、罰金の支払いを命じる判決が下された直後に、裁判所内に設置された自動納付機で罰金を支払うことを可能にする仕組みの導入などユニークな取組がされています。

- シンガポール国際調停センターにて ▶
仲裁等をする部屋と事務室間で文書等を運搬するロボット





◀ ニューサウスウェールズ州最高裁判所にて

バサースト最高裁長官（右）とワード最高裁判事（左）と意見交換する機会を得ました。



ACT最高裁判所にて ▶

ムレル最高裁長官と意見交換を行いました。

Australia

オーストラリアでも、裁判手続のIT化が積極的に進められており、連邦裁判所では約20年前からインターネットで書面提出ができるようになり、2020年1月からは訴訟記録が全面的に電子化されています。ウェブ会議システムによって行われる審理も多くなり、国土の広いオーストラリアの各地に常駐する裁判官が、専門的知見に応じて、遠隔地の事件を担当することが可能なナショナル・コート・フレームワークも導入されています。また、離婚事件では、子の養育などの論点について双方が希望を入力し、争点についてはチャット機能を通じて交渉することで合意を目指し、最終的に和解条項が示されるというソフトウェアも開発、導入されています。オーストラリアは連邦制なので、ACT（オーストラリア首都特別地域）及び各州にもそれぞれの裁判制度がありますが、これらの裁判所のIT化は地域ごとに個別に行なわれています。キャンベラにあるACT最高裁判所の建物は2018年暮れに完成した最新式のもので、その最もIT化が進んだ刑事法廷では、電子化された記録を法廷でスクリーンに出して見ながら審理ができることはもとより、証人の証言の際に、地図や図面を法廷内のスクリーンに出して、裁判官、検事、弁護人、証人

がそれぞれ別の色で書き込みをしながら証言内容を確認することができる上、その書き込みのあるデータを保存することもでき、法廷内では裁判官、当事者のみならず傍聴席にいる傍聴人にも音声と同じように聞き取れるような音響設備も設置されています。

おわりに

わが国においても裁判手続等のIT化が進められています。宮崎最高裁判事と両国の関係者との意見交換においては、IT化を進めることで、より利用しやすく、質の高い裁判が可能になるという認識で一致しました。



▲ オーストラリア連邦最高裁にて

キーフェル最高裁長官（中央）及び最高裁判事と懇談し、両国の司法の実情を報告しあうなど交流を深めました。